

リンカーンクラブの考え方

武田文彦（リンカーンクラブ代表）

TAKEDA Fumihiko (Lincoln Club / President)

（１）今の日本をどう見るか——「日本・第３革命」論

近代日本は２つの革命を体験している。第１革命は明治維新に始まる「維新革命」であり、その革命は江戸幕府を終焉せしめ、天皇を政治の頂点に頂く全国統一の大日本帝国を誕生せしめた。第２革命はアメリカの占領政策によって始まる「敗戦革命」であり、その革命は天皇大権を消滅せしめ、軍国主義を払拭し、婦人に選挙権を与え、国民主権の新国家を誕生させた。

「敗戦革命」前期における戦勝国アメリカの占領政策は、日本国民に憲法を押しつけるというあまりにも大きな過ちを含んでいた。しかし、民主主義と平和主義を謳う日本国憲法のその内容は、新たな国家体制を築き上げる根本理念としてふさわしいものであり、従って敗戦という大悲劇を背負ってはいたが、それは多くの日本人に希望を抱かせるものだったのである。

ところが、その民主主義と平和主義という日本国憲法の根本理念に変質をもたらしたのは、その憲法を押しつけたアメリカ自身であった。警察予備隊の設置を命令することによってであるが、そしてその日本国憲法の根本精神をさらに踏みにじり続けたのは、自由民主党であった。つまり、本来なら「敗戦革命」を担うべきはずの自由民主党が、実はその「敗戦革命」の掲げる精神を踏みにじる反革命の主体となっていたのである（「敗戦革命」中期）。

2014年、その日本国憲法の下で、集团的自衛権の行使を可能とする安全保障法が成立した。となると、もしアメリカが核攻撃を受けるといったような状況になった場合には、日本も核攻撃を受けるようになる。従って、日本国憲法の根本精神を食い荒らす自由民主党は、今や日本を死に至らしめかねないような状態に追い込んでしまったのである。

このような状況の下では民主主義政治など貫徹できないことは必定である。そこで、議会制民主主義の欠陥が露わになり、財政赤字などの問題も噴出するようになった（「敗戦革命」後期）。

しかし、この「敗戦革命」後期は「日本・第３革命」の準備の時期ともなるはずである。「維新革命」を起動させたもの、「敗戦革命」を強いたもの、それはともに外からの力であり、日本国民は革命後の世界をただ受け入れるしかなかった。ところが、「日本・第３革命」にあつては、国民自らが決定に参加でき、国民の意識によってわが国を理想の未来に導くことが可能になる。従って、私たちは「日本・第３革命」の実行を決意し、その準備を始めなくてはならないのである。

（２）どんな社会を目的にしているのか——究極的民主主義が実現する社会

リンカーンクラブが目的とする社会は、究極的民主主義が実現する社会である。私たちは、アメリカの第１６代大統領リンカーンが述べた「人民の人民による人民のための政治」を真の民主主義

と考えているが、現在行われている議会制民主主義は民主主義に非ずと断じている。その理由は、議会制民主主義は、選挙によって代表者を選ぶという仕組みを通じて、主権者である国民が国家の意思決定に直接参加する権利を奪い取るための制度だからである。従って、政治は「代表者の代表者による代表者のための政治」にならざるをえないのであり、国民一人ひとり主権者ではなく、「ただの人」になってしまうのである。

民主主義は歴史とともに進化してきた。そして今後も歴史とともに進化する。もしそうであれば、民主主義がどんどん進化して、最後にもうこれ以上進化の余地がないという状態があるはずである。つまり、それは民主主義の理想像でもあるが、私たちはそのような民主主義進化の究極的な状況を究極的民主主義と呼び、その究極的民主主義に到達するプロセスを究極的民主主義革命と呼ぶ。

究極的民主主義の政治制度とはどのようなものか。私たちは、究極的民主主義の制度は100%直接民主政の政治制度にはならず、その直接民主政と間接民主政（議会制民主政）の長所が融合した政治制度になると考える。その理由は、議会制民主主義にも政治にそれほど関心を持ってない人間が他者に任せることができるという長所があり、その長所を捨て去ることは究極的という言葉にそぐわないからであるが、しかし、究極的民主主義は、その議会制民主主義の欠陥と限界を克服したものでなくてはならない。

議会制民主主義の下では、主権者である国民の意志が代表者の意思にすり替わってしまい、代表者を選ぶだけで、個々の政治課題すべてに対する賛否を表明することがあまりない。また、国民は選挙の時だけ主権者で後は国政決定の場から追い出されてしまい、政権に反対する国民の意志が死票として顧みられない。

従って、究極的民主主義の制度の下では、主権者たる国民の意思＝国家の意思となる制度に変わらなくてはならず、本人が希望するならば、すべての主権者がすべての政治課題についてイエス・ノーと言える制度にならなくてはならない。また、選挙の時ばかりでなく、主権者が自分の意思を常に国政決定に反映できる制度にならなくてはならず、一票の死票も出さない完全な多数決原理の作動する制度にならなくてはならない。

私たちは、コンピューターなどの電子機器を駆使して国民投票の投開票と集計を行うためのオンラインシステムを整備し、さらに議会における議員の議決権をその議員の獲得投票数に連動するなどの制度改革を行えば、議会制民主主義の欠陥を克服できる制度を作り出せると考えている。ごく簡単に言えば、それはオンラインシステムによって国民一人ひとりと国政が直結し、その時々国民の意志がそのまま集計される究極的民主主義システムであるが、既に私たちはそのようなシステムの完成モデルを提示してきた。

もちろん、そのようなオンラインシステムが実用化されるには、もう少し時間がかかるであろう。しかし、私たちにとって重要なことは、今すぐそのようなシステムが完成するかどうかではない。そうではなく、最も重要なことは、現在行われている議会制民主主義には問題があり、私たちは究極的民主主義の方向に向かわなくてはならないということを示すことにあるのである。従って、私たちは、究極的民主主義の方向へと歴史を推し進めるのである。

（3）今何を主張するのか——現段階の基本政策

「日本・第3革命」、究極的民主主義革命という二つの革命は、たとえ重複する部分が多くとも、そのすべてが一致するわけではない。従って、ここでは、主に究極的民主主義に関する政策、主に「日本・第3革命」に関する政策、及びその他の政策に分けて現段階の基本政策を掲げることとする。

【主に究極的民主主義革命に関連する基本政策】

① 首相公選制（または大統領制）の採用

行政府の長（首相公選制の場合は首相、大統領制の場合は大統領）に誰になるのかは、主権者である国民にとって国政に関する最大の関心事であり、国民（主権者）の意思＝国家の意思が実現するかどうかにも深く関係する。従って、行政府の長は、国民が直接選ばなくてはならない。

② 重要課題国民投票制の採用

法律案であれ、予算であれ、条約であれ、国民が重要と考える重要な政策課題は、国民投票にかけなくてはならない。

③ 「投票手当支給制」（万円万来選挙制）の実施

国民が選挙に行き投票するということは公務、しかも、国家にとって最も重要な公務である。従って、投票を行うというその国民の公務に対して手当を払うことは当然のことであり、今まで手当が支給されていなかったことの方がおかしいのである。そしてこの場合、その投票手当支給制は、イギリスにおける選挙法改正の延長上にある民主主義の進化を意味する制度改革とも考えられ、また投票手当て支給制を実施することで、投票率が上がることも予想される。

【主に「日本・第3革命」に関連する基本政策（平和・外交革命）】

① 絶対平和革命——国益のために人命を賭さない

日本民族はもう戦争の悲しみを骨身に感じていいはずで、この大きな悲しみを民族の遺伝子にしなければならない。従って、私たちは日本をして、「国益のために人命を賭さない」絶対平和主義を持った国家にするのである。

② 日米安保条約の解消——国民をアメリカの戦争の犠牲者にさせない

アメリカは覇権国家であり、武断国家でもある。だからこそ、現在の日本には核戦争をも含むアメリカの戦争に巻き込まれる可能性が存在するのであり、従って、日本は1日も早く日米安全保障条約を解消しなければならない。

③ 集団自衛権の再放棄——安全保障法の廃止

日本国憲法は、もともと集団自衛権などを認めていないのであり、従って、安全保障法は廃止されなければならない、集団自衛権は再放棄する。

④ 永世中立政策の採用

戦争で負けたことの日本の国家としてのメリットは、日本が覇権大国になる必要がなくなったことにある。そこで日本は、世界に対して永世中立国民宣言を発し、覇権争いをしなくて済む外交に専念すべきである。

【その他の基本政策】

① 「抗不安国家体制」の確立

私たちは北欧型高度福祉国家の実現を目指し、国民の感じているあらゆる不安に対応できる国家体制を築き上げることを目指す。そこで、「生活苦で自殺しなければならない国民は出さない」「病気になったあらゆる国民が技術的には最高の手当てが受けられる」、「子供が安心して成長できる環境を整備する」「すべての国民が老後に不安を抱かなくても済むような環境を整える」などの最低限の福祉政策に取り組まなくてはならない。

② 財政赤字の解消

「抗不安国家体制」の確立には膨大な費用と、人間が必要である。そこで、私たちは財政赤字の解消問題にも積極的に取り組まなくてはならない。

2025 年 5 月 11 日 受稿